



「ストラックアウト」を楽しむ子どもたち

信濃GS応援 縁日イベント

長野・第一学院高生徒ら 中野のホーム戦に合わせて

中野市営球場で4日に行われた信濃グランセローズ対栃木ゴールデンブレースの試合に合わせて、広域通信制の第一学院高校長野キャンパス(長野市)の生徒たちが、球場の入り口付近で縁日イベントを開いた。手作りのゲームなどの催しが子どもから大人まで大勢の来場者に喜ばれ、生徒たちは「継続した取り組みにしたい」と手応えを感じていた。

手作りゲーム 順番待ちも

信濃グランセローズの球団職員から依頼を受けて、地域のプロスポーツを盛り上げたいと初めて企画した。ボールを番号の付いた的に当てる「ストラックアウト」、ボディペイント、スパーボールすくいなどの3種類のコーナーを用意。厳しい暑さが続く中、試合開始の1時間前から開催した。

ボディペイントのコーナーでは、来場者が「推し」の選手の背番号や「フアイト」などのペイントを顔や手に描いてもらった。東京都中野区から訪れた山裕子さん(55)は「テンションが上がって応援に熱が入りそう」とうれしそう。

ストラックアウトは、信濃グランセローズのグッズが景品としてもらえることもあり、子どもたちが列をなす場面も。中野市延徳小学校3年の吉越莉士さん(9)は、信濃グランセローズの野球帽をかぶって挑戦し、グッズを手にした。「こういうイベントがあるのもっと試合を見に来たくなると話した。」

第一学院高2年の小林大斗さん(17)は「自分たちで一から作った物で笑顔になつてもらい、本當にうれしい。今後も信濃グランセローズの応援で何かやっつけていけたら」。同2年の滝沢由愛さん(16)は「野球の面白さに気づくことができた」と笑顔だった。小林晋志美教諭(49)は「社会とつながりを実感できる取り組みとなった。今後も継続したい」と話した。